

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	年度初めの職員会議において経営計画書を基に理念を共有し、利用者サービスの基礎となるように努めています。	毎年配布される経営計画書に理念が記載されているため、職員はいつでもそれを読み、確認することができます。「福祉の心」という理念が浸透しています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染症に伴い、取り組みは実施されていないが、少しずつ交流の機会を増やしていきたい。	以前、月一回行われる地域サロンに参加していたが、コロナの流行に伴い参加を見合わせていました。5類にもなり感染も落ち着いてきたため、近々再開する予定です。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	広報誌『ソレイユだより』を通じて近隣地域の方々に発信している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこで意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス感染症に伴い紙面での開催となっていた。資料作成の際には、日頃の利用者の取り組みや職員の関りを取り入れ作成している。	基本的には奇数月に運営推進会議を開催しています。コロナの流行に伴い書面での開催となっていたが、感染も落ち着いてきたため、次回からは対面に戻す予定です。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	計画作成者を中心に、必要書類の提出やわからないことを電話や直接伺い相談している。その際、取り組み状況や実績について報告している。	疑問点があれば函南町福祉課に連絡し、質問しています。また、管理者は認知症サポーター講座で講師を務めており、地域での認知症の普及啓発に貢献しています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員会議の中で内部研修として行っている。日頃の利用者対応の中で身体拘束に該当しないか確認、検討をしている。	開設時から身体拘束0を貫いています。行動制限とは何か？職員に投げかけ、研修やカンファレンスの時などに考える機会を与えています。センサーマットを使用しているご利用者様もいますが、センサー音が鳴ったら急行し、「どうされましたか」と聞いた上で、どこに行きたいか等尋ねるようにしています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議の中で内部研修として行っている。職員間で共有し虐待防止に努めているが、新人職員に対する研修がタイムリーに行うことができていない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者の中に活用している方がいるため制度については見聞きしている。定期的な勉強会は必要と感じる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には管理者より、ご本人、ご家族向け説明をさせていただいている。ご理解とご承諾をいただき署名、捺印をいただいている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者については日頃の関わりの中での声を受け止めサービス内容に取り入れている。ご家族に対しては電話や面会時に伺い、サービス計画書に取り入れている。	ご本人から食事に関すること、ご家族からは外出に関する要望が出たことがあり、それについて改善を図り、実現しました。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの声を受け止め、調整し実現に努めている。基本的に提案型の組織体制でありたい。職員の声が反映される環境になるように努めている。	職員からサービスについての意見が出た場合、それを反映するかの判断基準は、「ご利用者様にとってプラスになるか」という利用者本位の視点を重視しており、。プラスになることであれば実行に移しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の取り組み成果について数値化され客観的に評価を行える仕組みは構築されているが全社での取り組みとなるため、実施には至っていない。向上心を持って働けることについては資格支援制度を全社で実施している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内供研修については新型コロナウイルス感染症に伴い社内研修を見合わせていたが、令和6年度より再開する。外部研修については職員の希望に合わせ実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	新型コロナウイルス感染症に伴い、実現していないが、他事業所の管理者と協力体制を図る取り組みを計画している。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の見学時や契約時においてご本人からご希望や思い、困りごとを時間をかけて伺い、職員間で事前に情報を共有し、安心して生活していただけるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の見学時や契約時においてご家族からご希望や思い、困りごとを時間をかけて伺い、ご希望に添える様、努めている。また電話等で日頃の様子をお伝えし、良い関係となるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者やご家族が必要とするサービスを見極め、それらをサービス計画に盛り込んだ対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	事前に情報収集した生活背景や本人の意向を職員間で共有し、日常生活の中で利用者と共に行う関係を築くように努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者やご家族の要望に可能な限り応えることができるように努めている。受診や外出等、ご家族も含め調整し、共に支える体制を行っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所後も行きつけの美容院やお墓参り、ご近所、ご友人との面会ができるようにしています。また、携帯電話をお持ちの利用者はいつでも利用できるようにしています。	配偶者の月命日にお墓参りをする方、自宅に外泊する方、自宅周辺を散歩する方、ご友人と電話で話す方などがおられ、馴染みの人や場所を大切にしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	必要に応じて職員が間に利用者同士のコミュニケーションが円滑に取れるように配慮している。また、孤立することがないようにレク活動や散歩など関りが持てるように配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後もすぐに関係を断ち切ることなく、必要に応じて連絡をとり関りを持っている。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の関わりの中で利用者の声に耳を傾け、思いを引き出す関りに努めている。それが困難な場合は、対応中の様子から意向の把握に努めています。認定の更新時には改めて確認しています。	入居に際し、自宅を訪問して周辺の様子や、暮らしの中のその人らしさを確認するようにしています。こだわりや好きだったものを家族や本人から伺い、意向の把握に努めています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族から事前に伺い、職員間で共有している。また、日頃のコミュニケーションの中から把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日頃からの生活リズムを把握し、ご本人が過ごしやすくなるような関りに努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の情報を、介護、看護、計画作成の間で情報を共有し、ご本人らしさを引き出し継続できるような計画ができるように努めている。	計画作成担当者が介護職員や看護師、医師、家族にヒアリングし、情報共有をした上で介護計画を作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者個々に日々の様子をケース記録に記載している。気づきの共有をし、日々の関りや計画に反映できるように努めている。ケース記録への記載内容の具体性については課題がある。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	突発的なニーズに対しても柔軟な対応ができるように努めている。 基本的に『今の困りごと』に対して対応できるように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者個々の希望に沿って、買い物へ一緒に行うなどの支援に努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、ご家族の希望により、かかりつけ医への受診を継続していただいている。施設としては往診医に見ていただき、必要な治療の体制を整えている。 双方の医療機関とも連携が図れている。	かかりつけ医の選択ができることを事前説明をしています。入居後にかかりつけ医・専門医に受診をする場合は、函南町から配布されるタクシー券を使用し、家族と相談の上職員が受診同行をすることが可能です。事業所協力医からの処方に関しては薬局からジェネリック医薬品の処方が可能かを家族に相談しています。事業所からは薬の増減の報告を随時行っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の業務の中で利用者の情報を共有している。看護師を中心に往診医との連携を図り、利用者の健康管理に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、日頃の様子を伝え、情報提供している。退院時のカンファレンスに参加し、情報交換し退院後の対応に反映している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	入所時にご本人やご家族に意向の確認を行っている。また、身体状況に合わせ、ご家族、往診医とともに話し合いの場をもうけ、往診医からの説明、選択肢の提案を行っている。	入居契約時には家族や本人に、重度化に関する意向の確認をしています。終末期に入る場面では、医師参加のカンファレンスで家族と共有し、対応しています。家族の付き添いは夜間を含めて可能です。職員は連絡ノートなどで共有を図っています。付き添いも家族のご都合の良い時間(夜間含め)にいらしていただくことが可能です。職員も連絡ノートなどで共有し対応します。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアルを作成していますが、実際の場面を想定した訓練を行う必要がある。職員会議の機会を利用し実践していきたい。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、総合防災訓練を実施している。消防署や防災設備業者にも参加していただいている。	訓練には入居者も参加してください。火災消火訓練では水消火器を入居者にも使用していただいています。避難場所など消防署のアドバイスを随時いただいています。事業所開設時がコロナ禍で、事業所周辺はアパートが多いため、地域の方の参加はありませんが、今後協力体制を整える予定です。	コロナ禍の開設・事業所周辺事情などもあり、地域との交流が難しいかと思えます。自治会には参加されていると伺いましたので、今後は防災訓練のお知らせなど回覧し、地域との交流が図れることを期待します。
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を傷つけないように尊敬の念を持ち、関わりを持つように努めているが、改善が必要と感じる。	事業所では午前(体操)・午後(脳活性プログラム)のメニューがあります。本人の意思を尊重しており、日によって参加人数が異なります。常に自宅に近い生活ができるよう心がけています。職員の声かけも声の大きさ、言葉づかいなどに注意しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の思いや希望を引き出せるような関りや声かけを行い、何気ない会話の中で自己決定していただけるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	日々、心がけ実践するように努めているが、業務優先になってしまうときも見受けられる。限られた人員の中で、最大限の努力をしたい。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご希望に合わせた化粧品や衣類を日頃より使用していただいている。また、必要時には一緒に選ぶようにしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者が食べたいものを可能な限り、用意できるように努めています。食器洗い、テーブル拭きを利用者の方が行ってくれています。	入居者ができることを職員と一緒にしています。季節行事として「梅シロップ作り」「干し柿作り」など実施しています。法人内の他事業所と一緒に餅つきを行うこともあります。食欲が低下している場合は、好きな食べ物を聞いて提供したり、食器を替えてみるなど、家族と協力し、召し上がってもらえるよう検討しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	委託している調理業者がバランスの取れた食事を提供している。嚥下機能に合わせて食事形態を工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを実施している。また、週に1回、訪問歯科があり口腔内のチェックを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者個々での対応には至っていないが、排泄サイクルを把握した誘導に努めている。	トイレが居室にある入居者は居室で排泄介助を行っています。排泄リズム表をつけ、一人ひとりの排泄時間に合わせて介助しています。函南町からリハビリパンツなどの支給がありますが、昼・夜のパット調整を行いながら、使用量ができるだけ少なくするように対応しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給を促し、体操や散歩など運動の機械を確保し便秘の予防に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	利用者個々に曜日を指定していますが、ご本人の状況やご希望に合わせて、柔軟に対応するように努めている。	入浴は週2回です。回数の変更を要望された場合は臨機応変に対応しています。入浴を拒否された入居者には、声掛けの時間調整・数名の職員での声かけ・自宅にいた時の対応など様々な視点から検討をしています。浴槽のお湯は一人ひとり交換し、入浴剤・かわり湯(バラ・袖など)を入れて楽しんでいただきます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本的には、ご本人の希望に沿い休息していただいている。 特に食後は、ゆっくりと休んでいただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬情報を確認できるように、フロアごとに薬の情報をファイリングしていつでも確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯たみ、食器洗い、拭き、片付け掃除の手伝い、パズル、塗り絵など利用者個々の希望や状況に合わせた支援を行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	月参りに出かける方、ご家族と毎週、散歩に出かける方がいらっしゃいます。他の利用者に対しても外出への働きかけを継続して続けていく。	入居者によって近隣への散歩回数を変更しています。月1回はドライブを行い、季節を楽しんでいただくように対応しています。現在の生活リズムに落ち着いているため、少しずつ生活に変化をつける意味で外出を増やしていく予定です。	コロナ禍の開設だった為、数年間は外出することが困難でした。入居者の生活リズムを変化させることは大変かと思いますが、外の空気を肌で感じる・太陽にあたることは大切なので、入居者が混乱しない程度に外出機会を多くし、生活リズムの変更をすることを期待します。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則として事務所の金庫にて預り管理している。ご本人、ご家族の同意のうえで現金を所持している方もいます。希望時には対応できるように努めています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族への電話や手紙に対して、個人の携帯電話や会社の固定電話等でご希望時に連絡ができるようように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	環境整備や清掃、BGMを流すなどの空間の環境を整えるように努めている。 共用のトイレについては、使用中の札をつけるなど、混乱をしないように配慮している。	各ユニットの玄関は施錠していないため、自由に行き来が可能です。日中は日・時間によって演歌・唱歌・クラシック・ジャズなどをバックミュージックとしてかけています。共有部の他にソファ・椅子を設置し、好きな場所で寛いでいます。エアコンが嫌いな人には席の変更など対応を検討し、実践しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フローアや廊下にソファや椅子を置き、自由に座れる環境を作るように肺書している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはご自宅で使い慣れた家具や備品をご持参いただき、ご自宅に近い環境や景色で安心して過ごしていただけるように努めています。	できるだけ自宅に近い環境を整える意味で自宅にあるテレビを持ってきてもらうようお願いしています。入居者・家族によっては仏壇・ソファを持ってくる人もおられます。表札上には家族が作った入居者の好きだった物・事柄をフレームの中に入れてあります。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	適材適所に手すりやスロープ、階段等があります。安全面に配慮しながら、日常生活の中で訓練ができるような環境になっている。		